



# やまゆり

学校だより

令和5年4月18日  
5号  
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」  
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一

学校教育重点目標 「確かな学力の育成」・「豊かな心の育成」

**教科書を手にとり、**

**学習への決意を新たにしましょう**

今から約70年前の5月。その日も780人もの人を乗せて、船(紫雲丸)は出発しました。本州へ修学旅行に向かう小・中学生がたくさん乗っていました。まだまだ、日本が貧しかった頃です。本州へ旅行をするのは初めてという子どもたちもたくさんいました。船の中は子どもたちの笑い声やおしゃべりの声で華やいだ雰囲気でした。

ところが、濃い霧のため出発してから数分後、船は向かって来た船と衝突。わずか5分で船は沈没しました。

救命道具を身につける間もなく、たくさんの方が海に放り出されました。霧の中、「お母さん、助けて！」と溺れながら泣き叫ぶ子どもたちの声が聞こえていたそうです。この事故で、子どもたちを中心に168人の命が奪われました。

「今頃は海の上かな」「はしゃぎすぎて先生に叱られなければいいんだけど」そんなふうに残っていた家族のもとへ事故の知らせが届きました。家族はすぐ現場へ駆けつけました。一か所では収まらないたくさんの方の数ですから、救助された人たちは、何か所にも分かれています。

うずくまっているもの。毛布をかぶって横たわっているもの。その人たちを介抱している人たち。たくさんの方たちがごった返していました。その中を、

「A男、A男、どこにいるんだ。」「B子、B子、お母さんだよ。」

家族の人たちは、わが子を必死で探しました。名前を呼び、一人一人の顔を覗き込んでいくのです。わが子に似ている顔を見るだけで、涙が止まりません。

その様子を見て、係の人が声をかけました。「お子さんがどこにいるのか、表の張り紙に書いてあります。張り紙を見て探したほうが早いですよ。」

でも、そんな係の人の言葉には耳を貸さず、なおも親たちは子どもの名前を叫び、泣きながら一人一人の顔を見つめていくのです。親切な係の人は、また、声をかけました。

「私も一緒に張り紙を見てあげましょう。お子さんの名前は何というのですか。どんな字を書くのですか」それでも、親たちは係の人の親切に答えようとはしませんでした。

一人一人の顔を確認しながら探すより、張り紙を見た方がずっと早く探せるじゃないですか。なぜ、家族はそうしなかったのでしょうか。実は、その人たちは字が読めなかったのです。

明治になり、日本が新しい国に生まれ変わって60年ほどたっていました。身分が決められていた江戸時代と違って、人はみな平等であると言われるようになっていました。

でも、人々の心の中にある差別は消えずに残っていたのです。差別を受けていた人たちには仕事がありませんでした。それでも家族みんなが、力を合わせて、田や畑を耕したりいろいろな仕事をしたりして暮らしていました。だから、学校へ行く余裕などなかったのです。たまに学校へ行っても、勉強の内容が分かりません。からかいやいじめを受けました。だから、余計学校に行けず、文字を習わないまま大人になった人たちが、貧しい地域ほどたくさんいたのです。

船の事故で子どもを亡くした親の中にも、文字の読めない人がたくさんいました。張り紙の字さへ読めたら、せめてわが子の名前だけでも読むことができたなら……。

子どもを探し回りながら、親たちはどんなに悲しく悔しい思いでいっぱいだったことでしょう。

字が読めるようになりたい、人間らしく生きていきたい。そんな願いから小さな学習会が開かれるようになりました。

一日の仕事を終え、体は疲れていても学習会に参加し、少しずつ文字を覚え、本を読んだり知識を増やしたりしていきました。

日本国憲法を学習していた時のことです。

「先生、『義務教育はこれを無償とする』と書いてあるが、「無償」とはどういう意味ですか。」

「無償というのは、お金を取らないとか、無料という意味です。」

「ということはただということですね。」

日本国憲法26条には、『すべて国民は法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育はこれを、無償とする。』とあります。「だったら、教科書だってただでないとおかしいんじゃないか。」

「そうよね。教科書って、高いから簡単に買えないよね……。」

その当時、教科書は自分で買うことになっていました。新しい教科書を買そろえると、大人が

一日働いてもらえる給料の二倍から四倍もの費用がかかりました。だから、どこの家庭でも、古い教科書を兄弟で譲り合ったり、近所からもらったりして使うのが当たり前だったのです。」

「教科書をただにするように政府に訴えていこう！」

こうして、高知県の小さな村で教科書を無料にする運動が始まりました。もちろん国としても多額の費用がかかるので簡単にはできません。

でも、運動は全国に広がっていきました。そして、活動を始めて約10年後に教科書は政府がお金を出すことになり、国民がお金を払って買う必要が無くなったのです。

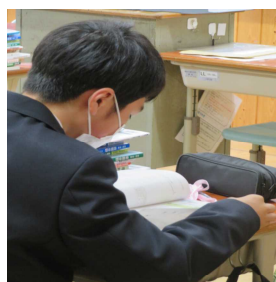
毎年新しく手にする教科書は、無償で全国の小・中学生に配られています。

しかし、教科書無償の制度ができるまでには、多くの人の命と涙と血のにじむような努力があったのです。

私たちは、誰でも等しく教育を受ける権利があります。この権利を保障したものが無償で配布される教科書なのです。

教科書を手に取り、じっと見つめ、今日からの学習への決意を新たにしましょう。

- 教科書は、大切に使いましょう。
- 教科書を、忘れてはいけません。
- 教科書を、紛失してはいけません。
- 教科書は、一ページ一ページしっかり開きましょう。
- 教科書は、隅から隅まで徹底して声を出して読み込みましょう。
- 教科書は、家庭で毎日開く習慣をつけましょう。
- 教科書は、日本の教育の機会均等・教育水準の質を保つ貴重な本です。
- 教科書は、日本の文化の集大成です。



学校教育目標 「貢献」・重点目標「居心地良く・やる気のある学級づくり」

## 日本赤十字社山梨支部の総会で道志中学校のいじめや不登校防止の発表

本日、4月18日(火)の午後から日本赤十字山梨支部の指導者協議会総会が行われます。その会で、本校のいじめや不登校の防止に関する発表をする依頼を受けました。

本校も道志小学校も「青少年赤十字」の加盟校です。赤十字活動は全国的な組織であることは多く方がご存知だと思います。現在は、赤十字の理念を学校教育に取り入れながら「防災」や「いじめ・不登校防止」、「主体的な学習」、「道德教育」等を加盟校で推進しています。

### 青少年赤十字の目的 「人道」

- ・ 自分や周りの人の命と健康を大切に、困っている人がいたらいつでも親切にする。そして、世界の人と仲良くする。このような理念を教育に生かし、「自分の力を社会のために役立てて貢献する人間を育成する」ことを目指しています。

スローガン 「人間を救うのは、人間だ」

### 青少年赤十字の目標

・「奉仕」(親切) ・「健康・安全」(命と健康) ・「国際理解・親善」(仲良く) ⇔ 「人道」

○ 「気づき・考え・行動する」(各自が自分で主体的に活動することが大切)

※ 本校の学校教育目標の副題です

新学習指導要領では「いじめへの対応」が求められています。

- いじめをせず仲良くする(相互理解・寛容)
- 理解し合い、信頼や友情を育む(信頼・友情)
- 寛大な心をもって人の過ちを許す(相互理解・寛容)
- 法や決まりを守らず、自分勝手な言動を許さない(規則の尊重)
- 同調圧力に流されない(宏平・公正)

本校の

発表内容 人道の精神を生かし、学校でのいじめ防止活動を「三助法」で推進する

- 1 人道の精神を生かし、いじめ防止活動を推進する。
- 2 公助としての活動 学級の安定と活性化をWEBQUを活用しチームで協働する
- 3 自助・共助によるいじめ防止
- 4 文部科学省 いじめ問題子どもサミットに参加
- 5 JRC加盟校としていじめに取り組むことの提起